

平成26年度第1回新潟市清掃審議会会議概要

開催日時	平成26年5月14日（水）午後2時00分～午後3時30分	
会 場	新潟市役所白山浦庁舎7号棟4階7-405会議室	
出席者	出席委員	松原会長、山賀副会長、菊野委員、柴田委員、 高橋若菜委員、伊井委員、飯島委員、石井委員、 窪田委員、高橋まゆみ委員、高橋善輝委員、中澤委員、 八子委員 計13名 (欠席 渡邊委員、菅谷委員)
	事務局	環境部長、廃棄物政策課長、廃棄物対策課長、 廃棄物施設課長 ほか
主な議事	<p>1 開会</p> <p>2 議題 (1) ごみ処理手数料収入による市民還元事業について</p> <p>ア 実施経緯及び現状について</p> <p>イ 市民還元事業の検証について</p> <p>3 連絡事項</p> <p>4 閉会</p>	
主な議題	<p><審議の進め方> それぞれの議題について資料に基づき事務局が説明を行った後、委員からの意見・質問を受け審議を進めました。</p>	

<議題> (主な意見等)

(1) ごみ処理手数料収入による市民還元事業について

ア 実施経緯及び現状について

イ 市民還元事業の検証について

- 平成23年度から防犯灯設置補助ということで始まっている。地球温暖化対策ということで始めたと思うが、これが開始された経緯を教えてください。省エネで地球温暖化対策ということか。

市～ LEDの防犯灯設置補助ということでスタートした。これまで通常の蛍光灯だと1/2の補助率だったが、これがLEDだと2/3になったということ。省エネを推進するという趣旨である。

- クリーンにいがた推進員の活動がみえてこない。どのくらいの人数がいるのか、活動の内容について教えてください。

市～ この制度について、平成20年2月からスタートした。新ごみ減量制度開始にあたり、各自治会・町内会から推薦いただいた。地域に根付いて新しい分別制度を伝えていただくような取り組みをお願いしており、地域と行政のパイプ役である。人数について、20年度は約3,000人、その後増えて25年度は約5,000人の方に活動していただいている。

- 推進員への啓発などはどのように行っているのか。

市～ 毎年5月末頃から推進員の研修会を各区ごとに実施している。推進員の役割や市の廃棄物政策に関する最新の情報などを提供している。また、秋頃には推進員を対象としたプラマーク容器包装の処理施設の見学も実施している。

- アンケートを行うのであれば、意識とか啓発とともに、どのように分別に関する情報を得ているか、また物理的な環境も聞いてほしい。例えば集積場への距離、住居環境(戸建か集合住宅か)などについても聞いてみてはどうか。物理的な環境が分別への協力に影響するという調査結果もある。

市～ いただいた意見を踏まえ質問を追加する方向で検討したい。

- アンケート(案)問6について、新ごみ減量制度が定着している状況で少しネガティブな聞き方ではないか。今後さらに環境先進都市として進めるにあたって市民の皆さんにとってネックになっている部分は何か、といった質問の方がいいのではないか。

市～ 設問の表現については検討する。

- 問15の基金について、メリット、デメリットがあると思う。そのあたりも説明しないと一般の方にとっては難しい。個人的には基金について、より透明性が高まるし安定した財源となり、メリットがあると思っている。

	<p>市～ 還元事業で収支を合わせているという部分は、市議会からも指摘を受けている。基金を追加することについて、新たに条例の創設も必要なため、委員の皆さんのご意見をいただきたい。</p> <p>○ 新潟市でこのようなアンケートを行った場合の回収率を教えてください。また、無作為ということだが、8区で無作為抽出するのか。偏りが出た場合どうするのか。</p> <p>市～ 市政世論調査では50%前後の回収率。8区でそれぞれ人口の偏りがあるため、そこは考慮している。</p> <p>○ <u>資料4</u>について、歳入が年々増加しているように見えるのだが、支出をもう少し有効に使わないと、ごみの減量に進まないと思う。例えば、循環型社会の構築に向けて、分別を増やすということも必要ではないか。また、そのために還元金を使うことも検討してはどうか。</p> <p>市～ ごみの減量とリサイクルの推進に重点を置いて、研究を進めていきたいと考えている。</p>
傍聴者	2名